

事業の背景・目的

【背景】地域の環境保全活動関係者の高齢化による持続可能な里山の維持困難

【目的】里山維持管理手法について明確なガイドラインを示し、見沼田圃の環境保全活動関係者に積極的に利用してもらうことで、活動の効果を高めると共に、活動継続に向けて大きな課題の一つとなっている後継者や協働者の育成にも資することを目的とする。

クズ等雑草におおわれる見沼地区▶



事業の内容

事業① 基本構想企画事業

- ・代表地点選出
- ・地域の優位点/課題点を抽出
- ・コンセプトの確定



事業② 実証試験検討事業

- ・現況調査（測量）
- ・動植物調査
- ・整備（プレ試験）
- ・里山再生維持管理手法の試験計画策定



得られた成果

事業① 基本構想企画事業

- ・代表地点さいたま市緑区南部領辻（マルコ内）
- ・コンセプト
「見沼田圃本来の生物多様性保全を
目指した草地・湿地の低コスト管理」
- ・代表地点の保全計画概要の検討



事業② 実証試験検討事業

(1)動物の現況【指標】トンボ11種確認

昆虫類：8目39科85種 キロササエ（国NT・県VU）確認
水生生物：トンボ 4種/ゲンゴロウの一種 1種/甲殻類 3種/魚類 5種
鳥類：10目20科38種 希少種9種確認

(2)植物の現況【指標】湿生植物31種確認

植物：64科172種 ハンゲショウ（県VU）/イヌマトラノオ（県NT）確認

(3)冬季に池を整備（次年度計画の一部にあたる）

3月までにカワウ・カワセミ等鳥類が飛来



次年度計画の見通し：プレ整備によりフットワークの軽い動物は早くも訪れはじめ、次年度から植物等の変化をモニタリングする。
トンボ類のキイトトンボ、クロイトトンボ、アジアイトトンボ、ショウジョウトンボ等の飛来を期待している。環境へ圧をかけない範囲で
拡張整備を検討・実施する。近傍草地にて草刈りの頻度による生物多様性の変化を試験・監視する。